

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービスSA-N-PO庚午教室 (放課後等デイサービス)				公表日	令和8年 2月 10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境 ・ 体 制 整 備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	5	⇒机などを移動して活動スペースを確保している。 ⇒屋外で活動するグループと室内で活動するグループに分かれなどグループ分けを行っている。	⇒子どもたちが成長するにつれ、体も大きくなってくるため狭いと感じてくる。今後、考えていかないといけない問題である。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	4	⇒配置基準以上の支援員を配置し安心・安全にご利用いただけるように配慮している。	⇒日によって支援員の人数にばらつきがある。屋外活動時にはより職員が多く配置できるように今後も工夫していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	5	⇒室内は段差などがなく、安全に配慮した構造になっている。不必要なものを置かず、整理整頓を心掛け安全に過ごせるようにしている。	⇒手すりなどは設置されていないため、バリアフリー化されているとは言い難い。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	2	⇒毎日の清掃・消毒を徹底し、気持ちよく過ごせる場になるようにしている。 ⇒活動によって机などを移動し、工夫している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	1	⇒静養室を利用し、個別活動やテンションコントロールが難しい場面で落ち着くことができるようしている。		
業務 改 善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10	2	⇒業務改善を進めるために、ミーティングという形にとらわれず、日々、話し合いを行っている。	⇒目標を設定し、振り返りを行うなどできることはしているが、限られた職員で話し合いを行うことが多く、広く職員が参画しているとは言い難い。話し合った内容は職員みんなに伝え、共有するようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	0	⇒評価表、または日頃の話から保護者の方の意向等を把握するよう努めている。また、一つ一つできることから始めている。	⇒できることから始めているが、業務改善につなげることができていない。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	2	⇒ミーティングを行うことはもちろん、日々、話し合いを行うことで職員が意見を言えるようにしている。課題や問題を明確にし、業務改善につながるようにしている。	⇒ミーティングの時間の確保が難しい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	6	⇒第三者による外部評価は現在行っていないが、評価結果を本部の方と共有し、意見をいただいている。	⇒第三者による外部評価については検討中。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	1	⇒研修を受講する機会の確保に努め、オンラインも含め外部の研修に参加するようしている。事業所内でも伝達研修を行っている。	⇒法人内の研修については現在、検討、計画中。	
組織 ・ 運 営	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	1	⇒ホームページ上に支援プログラムを公表している。	⇒支援プログラムの定期的な見直し、修正が今後の課題。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11	2	⇒丁寧にアセスメントを行い、放課後等デイサービス計画を作成するようにしている。	⇒お子さまと保護者の方のニーズをより深く理解するため、面談を実施していく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	2	⇒児童発達支援管理責任者が職員に積極的に働きかけ、子どもの情報を収集し、計画の作成に生かしている。	⇒職員一人一人がお子さまの最善の利益を考えているが、全職員で共通理解をもてているとは言い難い状況。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	2	⇒放課後等デイサービス計画は職員間で共有、活動内容を考える際に使用している。	⇒職員一人一人が思いを持っており、それぞれが放課後等デイサービス計画に沿って支援を行おうとしている。統一した支援になるよう共通理解・共通認識を持つことが今後の課題。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1		⇒アセスメントシートについて、より深くお子さまのことを理解できるような様式に変更予定。	

非常時等の対応	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	1	⇒放課後等デイサービスガイドラインを確認し、放課後等デイサービス計画を作成するようしている。	⇒児童発達支援管理責任者だけでなく、職員全員が放課後等デイサービスガイドラインを深く理解し、支援内容を設定できるようにしていく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12	0	⇒広く職員の意見を取り入れるようにしている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12	1	⇒季節を感じられるようなプログラムや「食育」「木育」を意識した活動プログラムなど偏らないよう工夫している。	⇒活動プログラムを固定化する必要がある場合もあるが、様々な体験ができるように新しいことも取り入れていく。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	1	⇒お子さま一人ひとりをよく理解し、放課後等デイサービス計画を作成するようしている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	2	⇒支援内容や役割分担については打ち合わせを行い、確認しあうようにしている。	⇒「チームで連携して支援を行う」ということの意識付けを行っていく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	3	⇒必ずとは言いかねないが、気になった点や反省点を伝えあうようにしている。その日の出来事はその日のうちに職員で共有するようしている。	⇒支援開始前、支援終了後に必ず話し合いを行うことができるよう設定していく。話し合った内容を全職員と共有するようにしていく。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	0	⇒他の職員が書いた記録も読み、全職員が統一した書き方で記録が取れるようにしている。	⇒記録をとるだけに終わらず、支援の検証を行う時間を作っていく。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	1	⇒日々、話し合いを行なうなかで、子どもの成長などを把握し、児童発達支援管理責任者が適切に見直しを行ってくれている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	12	1	⇒活動プログラムを考える際、「4つの基本活動」を意識して決めていくようしている。	⇒「地域交流の機会の提供」について地域の公園で遊ぶ、という活動に限られている部分がある。地域の方と交流するイベントなどを計画し、広く地域の方に知っていただくのが今後の課題。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11	1	⇒日頃の活動、日常生活の中で子どもが自己選択・自己決定できるように働きかけている。子どもの「やりたい！」という気持ちが引き出せるようなかかわりを心掛けている。	⇒お子さまが主体性をもって活動に参加できるような工夫を行っていく。
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0	⇒管理者または児童発達支援管理責任者が出席するようしている。現場の職員への聞き取りも行い、広く子どもの情報を収集して参画するようしている。	⇒管理者、児童発達支援管理責任者だけでなく他の職員も各関係機関との連携に関われるようしていく。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	2	⇒相談員の方や小学校の先生方とは連携を取り、ともに子どもの成長を支える体制ができている。	⇒地域の保健、医療機関とは連携が取れていとは言えない。どのように連携を取っていくかが課題。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	2	⇒保護者の方からの情報が多い。下校時間についてや学校での様子など送迎時にできるだけ話をするようしている。	⇒下校時間の確認は現在、保護者の方を通して行っている。変更などにも迅速に対応できるように、学校と直接、情報共有できるよう関係の強化に努める。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	2	⇒庚午教室の児童発達支援から移行するお子さまが多いため、情報共有、相互理解はできている。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	6	⇒まだそのような事例はないが、移行先に情報提供できるように丁寧に支援内容等をまとめている。	⇒今現在は、障害福祉サービス事業所等との連携が取れていない。今後のためにもつながりを持つことが課題。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	3	⇒担当者会議などで助言を受ける機会はあるが、スーパーバイズというところまではいつていない。	⇒児童発達支援センターが主催の研修に参加することを続けていく。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	5	5	⇒地域の公園で遊ぶ、地域の行事に参加するなどはしている。	⇒地域の公園で遊ぶ、地域の行事に参加するなどのできることはやっているが、放課後児童クラブや児童館との交流はできていない。
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	10	2	⇒自立支援協議会等へ積極的に参加できているとは言い難いが、研修には参加するよう心掛けている。	⇒限られた職員しか参加ができない状況。情報共有は行っているが、自立支援協議会について、知らない職員もいるのが現状。

保護者への説明等	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	1	⇒こちらからお伝えするだけではなく、保護者の方のお話に耳を傾けるようにしている。	⇒お子さまの様子については丁寧に伝えていく。より深く共通理解を持てるように面談等の時間を確保していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	4	⇒市などからの研修の情報について、チラシを配布するなどの情報提供は行っている。	⇒情報提供の回数も少なく、ご家族の方に対して積極的に働きかけができるていない。ご家族の方がどのような研修を望まれているのか、ニーズを把握し自分たちでも情報を収集していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0	⇒契約時には安心してご利用していただけるように丁寧な説明を行っている。	⇒引き続き、丁寧な説明を心がけ、不安や心配事のないようにしていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12	0	⇒丁寧にアセスメントを行い、子どもの最善の利益を考慮した放課後等デイサービス計画を作成できるようにしている。	⇒アセスメント時だけではなく、日頃から子どもや保護者の方の思いを汲み取ることができるように丁寧なかかわりを心がける。また、面談の機会を持ち、意向を確認する場を作る。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	12	0	⇒「放課後等デイサービス計画」については必ず、保護者の方の同意を得るようにしている。	⇒同意を得る際に保護者の方が納得できるよう丁寧に説明する場を設けるようにする。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13	0		⇒保護者の方が相談したい、と思った時にいつでも相談できるように信頼関係を築いていく。定期的に面談の機会を確保することで話ができる場がある、という安心感を持つていただくことができるようになる。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	7	⇒親子イベントを開催し、保護者の方同士が交流する場ができた。	⇒親子イベントの場しか保護者の方が交流できる場がない。保護者会やきょうだい同士で交流できる機会を設けるよう茶話会や研修、イベントを計画していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	1	⇒相談や申し入れに対しては迅速かつ丁寧に対応するようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13	0	⇒行事予定については毎月発信、活動についてはインスタでの発信、年に4回以上のお便りの発行などによって、できるだけ広く知つていただけるように努力している。	⇒HPについてなかなか更新ができない状況。インスタやお便り以外にもSA-N-POを知つていただくツールになるように更新の頻度を上げていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12	1	⇒個人情報の取り扱いについては、鍵付きキャビネットに入れる、シュレッダーをかけるなど職員一人ひとりが気を付けている。	⇒個人情報の取り扱いに関しては一人ひとりの意識が高まるように、研修の実施を検討したい。
非常時等の対応	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12	0	⇒色々なツールを利用してコミュニケーションがとれるように配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	5	⇒地域の公園で遊ぶ、地域の行事に参加するなどはしている。	⇒地域の行事に参加することははあるが、地域の方を招待するような行事はできていない。地域の公園に出かける、行事に参加するなど地域に出ていき、知つていただくよう努力を引き続きしていく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	1	⇒各マニュアルを策定、研修・訓練を実施している。	⇒各マニュアルについて策定しているが、広く周知できていない。HP状に公表するなどみんなにわかりやすく伝えることができるようにしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	1	⇒BCPを策定し、避難訓練を実施。備蓄品に關しても定期的に点検を行っている。	⇒非常災害に備え、避難訓練を実施しているが、訓練がマンネリ化しないように、様々な場面を想定した訓練を行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	13	0	⇒アセスメントの時に詳しく丁寧に確認するようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12	1	⇒保護者の方と連携を取り、病院受診の際の話を聞いたり、常に確認を行いながら対応している。	⇒引き続き、常に保護者の方に確認を行なながら対応していく。職員もアレルギーに関する研修を受講するなど情報を更新していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12	1	⇒安全計画を策定し、研修・訓練を実施している。	⇒職員一人一人の安全管理に関する意識が高まるように引き続き、研修を行っていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	2	⇒安全計画を策定し、契約時に説明をしている。	⇒説明するだけでは伝わらない部分も多いため、広く周知できる方法を考えていく。

	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13	0	⇒ヒヤリハットについてはすぐに職員間で共有するようにしている。また、ミーティング時にも話し合いを行っている。	⇒些細なことでも気になることは職員間で共有し、より安心、より安全に支援を提供できるようにしていく。
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	0	⇒虐待防止に関しては委員会を設置し、研修の機会も年に数回確保している。また、研修で学んだことを生かせるように職員間での話し合いを行っている。	⇒引き続き、研修を実施し、職員の意識を高めていく。「あれ？」と疑問に思ったことをすぐに相談できるように風通しの良い職場にしていく。
	54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	2	⇒身体拘束の禁止については委員会を設置し、事業所内で研修を行っている。放課後等デイサービス計画には必ず記載するようにしている。	⇒引き続き、研修を実施し、職員の意識を高めていく。